

透析患者における肺の転移性石灰化(metastatic pulmonary calcification; MPC)の解析

医療法人衆和会 長崎腎病院

○小嶋幸徳 岩尾幸治 小松利恵子 船越 哲

【背景】

MPC 形成の主たる要因は、二次性副甲状腺機能亢進症による高カルシウム血症とされている。

【目的・方法】

当院の透析患者が現段階で透析歴 25 年以上の 29 名のうち、MPC と診断された患者とされなかった患者の P、Ca、iPTH の血液データ過去 2 年分を比較検証した。

【結果】

MPC と診断された 8 症例の平均年齢 66 ± 4 才、平均透析歴 29 ± 9 年であった。診断されなかった 19 症例の平均年齢 69 ± 5 才、平均透析歴 32 ± 2 年であった。血液データでは、MPC 群は、Ca 値 $9.0 \pm 0.6 \text{mg/dL}$ 、P 値 $5.7 \pm 0.4 \text{mg/dL}$ 、iPTH $87 \pm 79 \text{pg/dL}$ であった。非 MPC 群では Ca 値 $9.0 \pm 0.3 \text{mg/dL}$ 、P 値 $5.7 \pm 0.2 \text{mg/dL}$ 、iPTH $190 \pm 36 \text{pg/dL}$ と有意に高かった。加えて、MPC 群では PTX が 8 例中 4 例に施行されており、iPTH の変動が大きい傾向にあった。両群間で calcimimetics など、治療関連の有意差はなかった。

【考察】

今回の検証では MPC と診断された群では iPTH のみ有意な低値がみられ、また、iPTH の変動が大きいことより、急激な骨代謝の変化が発症に影響しているのかもしれない。